

## 2015年度コミュニケーション入学 入学前学習プログラム開講式 式辞

(2014年10月26日)

尾池和夫

2015年度の入学前学習プログラムの開講式にあたり、京都造形芸術大学の教職員を代表して、この瓜生山学園のキャンパスに、皆さんを心から歓迎いたします。夏期コミュニケーション入学、秋期コミュニケーション入学などの関門を突破して、619名の皆さんが入学前の学習プログラムを受講することになりました。まことにめでたうございます。

今日この開講式に参加された皆さんは、本学の方針に従って入念に準備され、時間をかけて実施された入学試験を、見事に通過してこられた方たちです。それを大きな誇りとして、志を高く持って学習に取りかかっていたきたいと思います。

この大学は「芸術的創造と哲学的思索によって良心を手腕に運用する新しい人間観、世界観の創造」という建学理念を掲げて設立された大学であります。この建学の理念を提唱した本学の創立者である徳山詳直さんは、この10月20日、85歳で亡くなりました。今、私たちは、本学の教育目標である「芸術を社会に活かすことのできる人材の育成」という言葉の意味をあらためてかみしめ、その精神をますます大切にしながら教育に力を入れていると思っています。

本学は、2015年度の、夏期および秋期コミュニケーション入学試験の受け入れ方針を示しました。このコミュニケーション入学試験は、体験授業型AO入試として位置づけられており、探究心、挑戦、思考力、発想、構想力、相互に理解しようとする姿勢などの視点から選抜を行っています。

芸術教育は、ともすれば自己表現の達成に重点が置かれがちですが、社会で通用する人材として活動していくためには、専門的な能力以上に、社会人として求められる基礎力、人間力を身につける必要があるのです。そのため、芸術によって社会に貢献しようとする高い志と意欲を持ち、自立した1人の人間として、他者と協調・協働しながら、芸術的創造活動を展開できる力を養うことをめざして、学習を深めて行くことを重要視します。

本学のアドミッション・ポリシーの基本は、これらのことを実践できる基本的素養を備えた学生を受け入れることにあるとしており、「芸術を学ぶ意欲と社会貢献をめざす高い使命感をもった学生の受け入れ」と定めています。そのため、表現技術の優劣だけにとらわれず、評価基準の異なる複数の入学試験を実施して多様な学生を選抜しています。

皆さんも、これらのことを忘れずに、これから本学の教職員とともにしっかりと未来を見つめながら、これらの視点を追跡していただきたいと思います。

これから説明がありますが、本学では、入学前学習プログラムを実施します。共通課題や、学科やコース専門の課題を与えて、取りかかっています。

たいへん厳しい内容だと思うかも知れませんが、大学の入試に合格するというのが、決して人生のゴールではないということを、最初にしっかりと理解してほしいということが、その背景にあるのです。入試に合格してから、入学式を迎えるまでに、どのような努力を続けたかということが、皆さん自身のそれぞれの未来を決めることになるということを知ってほしいのです。そして来年4月の入学式を迎えるまで、本学の教職員と、また、これからともに学ぶ仲間と、そして自分自身との対話を大切にしながら、学習を深めてほしいと思います。

大いに頑張って学習に取り組んでくださることを期待して、私の式辞といたします。ほんとうにおめでとうございます。

ありがとうございました。